

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、私の一般質問を始めたいと思います。

まず、去年7月の豪雨でがけ崩れをいたしました武雄伊万里線の赤穂山トンネルの付近の道路も11月1日に全面復旧をいたしまして、武内町民はもとよりでございますが、この武雄伊万里線を御利用いただいております皆さんが大変利便性が上がったものと、ありがたく思っております。また、この復旧に御尽力をいただきました皆様方に、この場をかりまして厚くお礼を申し上げます。また、私も武内町民の一人でございますが、このがけ崩れによりまして、道路のありがたさというのを痛感した一人でございます。

そこで、質問に入りますが、市道の整備について御質問をいたします。

さきの9月議会で、山口昌宏議員、それから松尾陽輔議員、山口等議員より道路問題について質問があり、またその答弁といたしまして、市道が980路線、このうち何らかの補修が必要な路線が440路線、距離にして345キロメートル、補修面積82万1,000平米と、費用として25億円という答弁がありました。

高度成長期、武雄市は競輪財源などを利用して市道の整備を進めていただいたわけですが、これまでの市道の整備、改良率、舗装率の整備状況はどうなっておるのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の市道の整備状況でございますけれども、先ほど議員おっしゃいましたように、市内980路線の中で実延長として598キロメートルあるわけですが、そのうち幅員4メートル以上の道路の改良率といたしましては72%、舗装率は95%になっております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

4メートル以上の道路で改良率が72%、残りが28%あるわけでございます。まちの中の家が立て込んだ市道もあるでしょう。また、周辺部の道路も28%の中に入っておりますが、そういう狭い道路も舗装率が95%ということですので、ほとんど舗装ができておることだと思います。ですが、このように整備をされた道路で、今までに議会で問題になっておりました交通事故の賠償事故などもたくさん起こっておるわけでございます。今後こういうことがないように努力しますという答弁を毎回いただいておりますが、道路の維持管理が不十分であったのではなかろうかと思うわけでございます。

そこで、本年の道路予算、事業費財源がどのようになっているのか、まずお尋ねをいたし

ます。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

平成22年9月末の道路橋梁費の予算ですけれども、全体として7億3,000万円ほどございます。そのうち、道路予算として、主要道路3路線交付金事業として2億4,000万円、それで、合併特例債を活用いたしました一般道路費として2億9,000万円、道路維持に1億4,000万円、あと道路整備助成等などに9,000万円の内訳となっております。

財源ですけれども、交付金事業の補助金1億1,000万円と合併特例債の2億8,000万円で、残り3億4,000万円は一般財源等として活用しております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

今の答弁で、道路予算が7億3,000万円、主要道路に5億3,000万円、道路維持に1億4,000万円、その他が6,000万円ということでした。

予算の比率といたしまして、改良費が73%、維持費が19%ということでございます。財源は、交付金と合併特例債の交付金参入で3億9,000万円ということで、いわば補助金、道路維持等は一般財源で充てられているということでございます。

現状としまして、舗装面の劣化、穴ぼこがあつてみたり、段差があつたり、ひび割れがしてみたりいろいろしているわけでございます。市道は、市民の一番利用する道路でございます。また、老人の押し車といいますか、それから車いす、それから目の不自由な方の歩行などに支障があり、道路に求められる安全性というのは非常に高いわけでございます。

先ほど申し上げましたこれらの道路整備の中で、今後は維持管理をもっと重要視して維持管理を推進する必要があるのではないかと私は思うわけでございますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が市長に就任させていただいて以来、新たにつくるのも大事ですけれども、やっぱり今あるものをきちんと修繕しながら大事に使うという観点から、大分予算の配分を変えました。

それは、もう1つ要点があつて、これは山口昌宏議員のときにお答えしましたけれども、昭和50年代につくった道路、あるいは橋梁、橋が、もう更新の時期を大量に迎えているという観点から、これは維持費に充当予算の配分をしなきゃいけないということで、私、前田副

市長、そして、まちづくり部で意見がもう一致しておりますし、それは議会も御理解を賜れると思っておりますので、そういうきちんとした予算配分をしてみたいと思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

先ほど440路線で補修費用が25億円かかると、1億4,000万円の年間予算でやりますと17.8年かかるわけでございます。これをやりよりますと、また今いい道路も18年たつと悪くなるということになるわけでございます。もうどんだけやってもやっても、結局、補修補修で追われていくという状況になるんじゃないかと思えます。

そこで、財政状況は非常に厳しいということはわかっております。ですが、住民の福祉向上のために、道路維持予算をとにかく来年度増額をお願いして道路維持に力を入れてほしいとお願いを申し上げておきます。市長、よろしいでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、私もね、やりたいのはやまやまですよ。山じゃありませんけど、本当やまやまですよ。本当に私もこのごろジョギングを始めてよくわかるんですけども、道路はやっぱり走りよったら思わぬところがぐっと落ちたりしていますので、これはすぐ話はまちづくり部にしていますけれども、本当に命にかかわる問題があります。

ただ、一方で、例えば、ワクチンの話でありますとか、例えば国保の話でありますとか、さまざまなことをやらなきゃいけないという観点から、どうしてもそれは優先配分をどうするかという観点と、もう1つが、多額の訴訟費用がありますので、そういったことを勘案しながらやっぱり進める必要があるだろうと、そういう認識をぜひ今これをごらんになられている市民の皆さんたちは自分たちの血税がどのように使われるかということについて、ぜひ我々と認識をともにしていただきたいというふうに思っています。

そういう意味で、もちろんしたいのはやまやまですけども、さまざまな優先配分の話と、もう少し訴訟費用の話といろいろ考えながら、議会と相談しながら、市民にとってベストな方法を考えていきたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

厳しい中というのはわかりますが、ひとつ御検討をいただきたいということをお願いして、

次に、食育の問題に移りたいと思います。

まず、浦郷教育長におかれましては、本年11月11日に、香川県高松市で開催されました第61回全国学校給食研究協議大会において文部科学大臣賞を受賞されております。本当におめでとうございます。

武雄市は、食育に真剣に取り組むということで、ほかの市に先駆けまして、県内でも唯一、行政内部に食育課を新設して食育の推進に当たっていただいております。平成20年度より3年計画で、がばいよか武雄の食育推進計画を作成して、さまざまな食育事業を展開しておられると思います。まず、これまでの食育事業の実施状況をお尋ねいたします。そして、どんな目標を掲げて、どんな事業を実施こられたのかもあわせてお尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

武雄の食育は、「楽しく！健康！おいしい野菜 みんなで食育はじめよう！」を合言葉に、子どもたちが五感を使って食を楽しむ体験型食育プログラムや、妊婦、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の食育を市民とともに進めるとして、望ましい食習慣の定着、食を選択する能力の育成、食と農のきずなづくりなどを目標に推進しております。

事業といたしまして、市内の食にかかわる関係団体の皆さんで組織した、食育寺小屋実行委員会が中心となり、親子の野菜づくり体験教室を初めとする体験型の食育推進プログラムを実施しております。また、食に関する理解を深めるためキッズキッチンや若者向けにお結びキッチンなどの実施をして啓発に努めております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

いろんな事業をされているというのはわかるんですが、実際の事業をやってみて、その成果というのはどのようなところにあらわれているのか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

食育推進計画では、幾つかの項目で数値目標を掲げております。

その中の、朝食を食べる児童・生徒の割合では、小学生の目標が95%に対しまして、21年度は89.8%、中学生の目標が90%に対しまして89.7%となっております。また、学校給食の県産食材使用率の目標が62%に対し、21年度は61.4%、これは19年度の46.9%からすると飛躍的に増加をしております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

市役所の職員さんたち、各課でございますが、土日を返上していろんなイベントに参加をさせていただいておことに感謝申し上げます。食育課も毎週そうだろうと思います。

このさまざまな事業をしておられる。しかし、市民の皆さんに、どれくらい食育が浸透をしてきているのか。そして、食育を推進するに当たって、問題点や課題など、部長が参加されてどういうことを感じられるのか、ちょっとお答えいただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

21年度も食育体験プログラムや食育まつり、そのほかの食育講座等に多数市民の方には参加していただきました。でも、さらに多くの方が食育活動を実践していただくことが大切ですので、そういうふうに推進を図っていきたくて思っております。

特に、できるだけ小さいうちに正しい食習慣を身につけること、それから、最低限の食事をつくることのできる能力を養うこと、これがとても大切だと感じております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

今、部長から、できるだけ小さいうちに正しい食習慣を身につけることが大切であると、最低限度はつくれるようになさないけんということでございました。

ちょっと教育委員会にお尋ねをいたしますが、文部科学省も子どもたちの食に関する正しい知識を身につけて、学校においても積極的に食育に取り組まなければならないということで、武雄市における学校給食に関する取り組みも現在どうされているのか、また、栄養教諭など、配置を文科省は言っておりますが、武雄市はどのようにされているのか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

このような場で紹介いただいてお礼を申し上げます。ありがとうございました。また頑張りたいと思います。

お尋ねの件でございますが、平成17年6月に食育基本法が制定されたわけですが、今こども部長のほうから話がありましたように、武雄市の食育推進計画があったことで制定されたことで、生涯を通じた食育の中の学校給食の時代をどう計画的に育てることができるかということで進めることができっております。

特に食について、やはり知識がないといけませんので、食に関する知識と食を選択する力、豊富な食料があるわけでありまして、選択する力、それらを義務教育段階でできるだけ経験を通じて身につけさせるということで、健全な食生活を実践できることができる人間を育てるというのがねらいでもありますし、その線に沿って進めているところでございます。

義務教育であります学校での教育でありますので、いかに計画的にできるかということでございますが、それぞれの学校の教育目標に即して、健康づくりの推進に向けて食に関する指導計画、自分の学校の食に関する指導計画を立てて、食事の重要性とか食の文化、あるいは健康、生産者の方への感謝の心などを含めまして、総合的に計画を持って指導をしているという状況でございます。

それから、2つ目の栄養教諭の制度でございますが、現在、市内6名の栄養職員の方がいらっしゃるんですが、そのうちの1名の方が学校栄養教諭という配置でございます。将来的には、全部の栄養職員の方を栄養教諭としてなっていきたいという計画があるようでございます。それは、これまで学校給食と食育がつながりにくかったと、栄養教諭として教室に入っていくことで食が繋がると、食育ができるということが理由のようでございます。積極的に教室にも入って、給食調理と給食の指導の、食育の指導の部分、両面をしていただいているということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

次に、地元産の食材を利用すると、文部科学省も学校において、食育の生きた教材となるように、なるべくならば地元産を使いなさいというような指導をされております。

先ほど、こども部長から推進計画の数値は御答弁をいただきましたが、学校給食における県産材の使用など、どのように取り組まれているかお尋ねをいたしたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの山口良広議員の野菜を見せてもらいながら、こういうのが給食に使えたらすばらしいだろうなというような思いで見せてもらっていたわけでありまして。

地元産の食材を食べさせてほしいという思いというのは、保護者だけでなく、それはもう地域の方々もそういう同じ思いだろうというふうに思います。どこで、だれがどうやってつくられたものかというのがわかることは、食の安全の面から非常に大事ですし、感謝する心をはぐくむ上からも意義あることだというふうに思います。

また、生産していただく方にとっても、だれが食べるのかわからないということと、学校給食で子どもたちが食べるとか、うちの孫も食べるかもとか、そういう思いでつくっていただ

くのでは、また意気込みも違ってこよかなという思いもするわけでございます。

小学校11校、中学校5校あるわけですが、小学校11校と中学校3校においては、学級園とか学校園とかがありまして、何らかの形で野菜をつくったりしているわけでございます。特に野菜、たくさんできたときは給食にも使ったりしているという、そういう面では、恵まれた学校環境にあるというふうに思いますし、食農教育とでも言うべきものだろうというふうに思います。

また、郷土食、郷土の献立の工夫などで地場産の食材を使っているという状況もございます。推進上、生産者の方とか直売所の方、JAの方、そして業者の方など、多くの関係の皆様と協力があって成り立つものでありまして、安定した数量を確保してもらわないといけないとか、価格とか、品質とか、またコーディネート、つないでいただく方というような方が望まれるところでありまして、これまで同様、食育課、そして農林商工課等と連携を図らせていただけて進めていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

先ほど山口議員から見せてもらった野菜などを給食で使えば、素晴らしい給食ができるんであろうというように、私もそう思います。農産物の地産地消を進められておるのは、同じように農林商工課もそういう事業をしてあるわけでございます。どのような取り組みをされているのか、また、学校給食に、武雄産の農産物を推進されておるのかどうか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

淵野営業部長

○淵野営業部長〔登壇〕

学校給食に武雄産の農産物の利用ということでございますけれども、武雄の食の日事業というのを平成20年度から始めております。この概要につきましては、月ごとの食材を設定し、武雄のしゅんの野菜を使うということで、1月を省く全月で11品目を選定いたしまして、市内の全小・中学校で実施をしているところです。

それから、これは説明会の一環でございますけれども、8月に市内の学校栄養士の先生を対象に、武雄のおすすめ食材産地見学会を開催し、市内の農産物についてPRをしたところです。

それから、5月10日、前後しますけれども、栄養士、納入業者の方、それからJA、県を招いて地産地消推進のための武雄市学校給食地場農産物の活用推進検討会、あるいは武雄市学校給食地場産農産物活用意見交換会を開催いたしまして、関係者全体で情報を共有し、地産地消を進めるための課題の洗い出しや生産、流通、調理の現場の流れをスムーズにいくよ

う取り組んでいるところでございます。

すみません。先ほど地産地消のための検討会というようなことで、5月10日ということをお私申し上げましたけれども、5月と10月の2回ということでおわびして訂正をいたします。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

いろいろなことをしていただいておりますということでございますが、市長も、みんなの政策集で使用率を80%までに伸ばしたいと、地場産の野菜、食べ物を80%まで高めたいと言っておられますが、使用率向上について、現在は61%ぐらいだということなんですが、どのようにお考えでしょうか。市長、御答弁をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この80%は、ちょっと高く書き過ぎたなと思って少し反省をしております。どうも民主党のマニフェストと同じごとになってきたと思って反省して、6割あったら、ほかの地域とか見ても、まあ及第点かなと思っていますので、これはある意味、努力目標、叱咤激励目標として私自身また上げるように頑張っていきたいと思っております。やっぱり50%を60%上げるって、これは結構簡単ですもんね。ここから先がなかなかどうして。ですので、それはもっと広く、JAさんであるとか、さまざまな農業経営者の皆さんと一緒に率を上げていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

80%はちょっと高う書き過ぎたということでございますが、8割も地元産ば使えば、余り使い過ぎということはなかろうばってんが、多過ぎるかなとも思います。

それで、いろいろ食育についてお尋ねをしてみました、食育推進計画が3年間ということでございます。それで、ことしがちょうど3年目に当たるわけでございます。今後どのようにしていかれるおつもりか、お尋ねを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

来年の2月6日に食育シンポジウムを開催いたしたいと思っております。これは武雄市の文化会館のほうで開催する予定ですけれども、市内の食育関係団体の発表の場とするとともに、食

に関する講演や県内外の著名な方々を迎えてパネルディスカッションなどをする予定で準備を進めております。来年度は体験活動などの主な事業はこのまま継続をしながら、24年度からの推進計画第2弾に向けて、プログラムの点検など改定作業を進めてまいりたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

大切な取り組みでございますので、ぜひ続けてほしいと。食育基本法でも、食育は知育、徳育及び体育の基礎となるという位置づけをされております。武雄市の子どものみならず、武雄市民がとにかく元気になるように食育を推進してほしいとお願いを申し上げまして、次の森林問題に移りたいと思います。

森林というのは、地球温暖化防止のために多面的な機能を持っておりますので、それを利用しなければならないというのは各種報道でなされております。また、地球温暖化に対しては、洪水、渇水による被害がさらに大きくなるという警告もされております。

森林というのは、保水機能はもちろんでございますが、治水機能も兼ね備えておるわけでございます。また、二酸化炭素の吸収源ということもあるわけでございます。今、山林を見ますと、だれも山に行かないと、手入れがされていないという山がたくさんあるわけでございます。この森林の多面的な機能を回復させるために、今、森林整備が必要ではなかろうかと思っておりますが、この森林整備に対する事業など、どういう事業があるのか教えてほしいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

瀏野営業部長

○瀏野営業部長〔登壇〕

森林整備についての事業でございますけれども、本年度の事業、これは武雄市では、市有林の保育事業、間伐材搬出利用補助金、森林整備地域活動支援交付金事業、水源林の造成事業、あるいは間伐実施加速化事業、ふるさとの森整備事業などを実施しています。

また、県では、保安林改良事業、保安林保育事業、荒廃森林の再生事業、さが四季彩森林づくりの整備事業、流域育成林整備事業、侵入竹林の緊急整備事業などが実施をされております。また、地域での事業としては、県民参加の森づくりの事業を実施しているところです。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

いろんな事業がなされておるわけでございますが、特に間伐事業というのがあります。間伐事業の中で、70%が切り捨て放置、山に短く切って放置するんですね。そして、あと30%

が木材として使用をされるという状況だそうでございます。山に放置、切り捨てますと、腐敗が進むわけでございます。腐敗するとき、長年にわたって、結局、有毒ガスではないですけど、二酸化炭素なのか何かは知りませんがガスを発生するそうです。それで、二酸化炭素を吸収しても下からガスが出ますので、余り効果がないというような話も聞きました。それで、木材の自給率というのが、昭和40年代、国内産で71.4%あったそうでございます。現在どうかといいますと27.8%、国産だけでございます。3分の1以下に落ちておるわけでございます。

ここで、間伐材を山に放置しないで搬出すると、人件費かれこれいろいろかかります。そういうのに多少なりとも援助できる分はないのかというお尋ねでございますが、お答えできますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

渚野営業部長

○渚野営業部長〔登壇〕

間伐材の搬出についてでございますけれども、現在、間伐実施加速化事業で実施しています間伐材のうち、本年度は3分の1程度を搬出するのを目標としていたしましたが、これについての達成について、先ほど言われましたように、木材価格等の低迷、あるいは間伐材の切り捨て間伐等々から達成するのは非常に厳しい達成目標となっております。この間伐材で利用するという点については、木材価格、あるいは利用する価値というのがなかなか見つからないというので切り捨て間伐というふうになっているのが現状でございますけれども、とにかくこの間伐材を搬出していきたいというふうに思っています。

幸いに、きのうもお話をいたしましたけれども、具体的な方針等については、今後県との協議となり検討していくこととなりますけれども、今年の10月1日に施行をされました公共建築物の木材利用促進法に基づき、低層の公共建築物について、木材の利用に努め、その拡大につなげていくということが定められましたので、ここら辺で間伐材等々についても搬出を促していきたいというふうに思っています。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

調べてまいりました。人工林の蓄積量というのは、41年に5億5,800万立米ありまして、平成19年に28億5,100万立米、山にあるそうでございます。5.1倍なっている。杉、ヒノキ、いろいろ材以外のものまで入れますと、山に44億立方メートル存在するそうでございます。そして、人工林の蓄積量というのが年間8,000万立米、そのうち製品として使用されるのが2,000万立米です。6,000万立米は木が大きくなるという、それで山に残るということになるということなんです。

それで、木材業界の方にお尋ねをしたところ、今、非常に不況で困っておられますが、年間4,000万立米から5,000万立米使うようにならなければ生きていけないと、存亡の危機だということでございます。非常に厳しい状況が続いておるといことは、もうそのとき聞いたのでございますが、武雄市では、武雄中学校、武雄小学校、和田住宅とか、新築、改築の工事が予定されております。木材の使用、武雄市産が一番いいんですが、県内産の木材の使用をしてほしいと思いますが、いかがでしょうか、お答えをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

武雄市の公共建築工事につきましては、請負業者の方に、特記仕様書、現場説明等において、県産材木材の利用の義務づけを平成16年1月以降は行っているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

16年1月以降、義務づけをしているということでございますが、調達の実態というのはどのように変わってきておるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

最近、平成21年度ですけれども、御船が丘小学校の放課後児童クラブの新築工事におきましては、唐津、嬉野、浜玉産の杉の材料を利用しております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

御船が丘の放課後児童クラブの建築には県内産を使ったということでございますが、そして、材木を納入された業者は、市内の業者ですか、それとも市外の業者ですか、ちょっとお尋ねをいたします。

それで、結局、景気が冷え込んで住宅着工も少なくなって、市内の製材所、大工さん、木材関係の方が大変困っておられます。今、木材は、新築の家というのは、プレカット工法というんですか、積み木を組み立てていく方法でございまして、昔ながらの家をつくる大工さんというのが、あと十数年後にはいなくなるであろうと、おられないだろうというようなことまで話聞きました。

そこで、公共事業の木材を市内の木材業者の方からとにかく納入をいただくと、また、市のほうから発注をいただくというようなことが考えられないのか、できないのか、そこをち

よっとお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの放課後児童クラブの調達ですけれども、伊万里の木材市場のほうから調達をされております。

それと、今後ですけれども、材の数量、納入時期、金額等の関係もありますけれども、調達につきましては、今後とも県内産及び市内業者等を活用されるように指導していきたいと考えております。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ぜひそうしてほしいんです。

私も先日、伊万里の木材市場に見学に行ってきました。家つくるためには相当な部分のやつはあそこでそろんじやなかろうかと私思いました。ですから、市内の公共事業に、市内の木材業者の方とにかく納入の機会を与えていただきますようお願いをしたいと。

それで、こういう木材に関することは、小さいときから木材と親しむということが必要であろうと思うわけですよ。それで、教育長すみませんが、学校教育の中で、森林教育というのはどのようにされておるのか、ちょっとお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

森林に関する教育でございますが、指導要領に確実に森林資源の働きについて学習するなど、明確に記されております。

その中で小学校を見ましたところ、国語でも出てきますし、社会科、理科、図工科、生活科などに教材として出てまいります。

中学校では、皆さんもつくられたかわかりませんが、技術家庭科で本棚をつくったりというような学習が今もございます。

それから、最近特徴的なのは、やはり環境問題での取り上げ方がふえてきたということでございます。例えば、酸性雨から守るとか、砂漠化した土地に植林するとか、あるいは漁師さんが植林した漁民の森とか、そういう自然環境の保護とか、そういうことを通して、森林の大切さ、必要性、働きや役割、そういうことを今学校では指導をしているというところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

森林問題の最後に、市長にお尋ねをいたします。

最後に、先ほど言いましたが、木材の市内業者に納入する機会を考えてほしいということですが、市長の御見解をお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどは、まちづくり部長が県内産及び市内業者の活用を指導するということでもありますので、私もこれに全く同じでありますので、意を含んでそのようにしたいと思っております。以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

最後の質問でございますが、武内町には馬場に山桜があるわけでございます。さきの議会で16番議員からいろいろ質問がございましたが、春になれば、九州管内はもちろんでございますが、関東、関西からカメラマン、観光客の方がたくさんお見えになります。来てもらうのは非常にうれしいことなんでございますが、観光客の方が桜の木の根っこに入って写真を撮りよんさあわけですね。そして、根っこの付近を踏み固めるということでございます。ある植木業者さんに聞きましたところ、「人間も血管の詰まあぎ障がいの出るやろうもん、木も一緒ばい。根ば踏んずくつき、肥料は上さん行かんけん衰えてくっばい」という話でございました。

そこでです、樹木医さんというんですか、樹医さんというんですか、専門家の方にちょっと見てもらって樹勢回復を考えてもらえないかという御相談でございます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

馬場の山桜につきましては、東真手野区、それから馬場地区の方の御協力で多くの観光客の皆さんが訪れていただいておりますことには感謝を申し上げたいと思います。

今言われました山桜について、樹木医さんとの意見等を聞いたかどうかということですが、これは平成20年4月に樹木医さんから一応意見をいただいております。主たる意見としては、まず、土壌的要因という形で、根のところが乾燥をし過ぎているということで、切り土部分があるわけですが、ここの切り地土部分に石垣等をして、良質の客土を入れて根を広げてやったほうがよいということが1つ考えられるであろうと。

それからもう1つ、ミカン山側のほうには施肥、肥料等の必要性もあるんだろうというふうに言われていますし、それからもう1つ、先ほど申し上げましたミカン山側のほうの枝、これは切らないほうがいいんじゃないかということ、樹勢もよくなるだろうと、こういうふうなことを意見として述べられておりますので、経年の変化等を見ながら対応をしていきたいということで考えておるところであります。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ここは私有地でございますので、なかなか難しいというのはわかっておりますが、今後、東真手野区、馬場地区と十分御協議をいただいて、よりよい管理をしていけますようによく御指導いただきたいと思っております。

最後に、市長にお尋ねをいたします。

今後の武雄市市政運営はどのように考えておられるのか。また、市民病院問題で、住民訴訟の現状について。それから、新武雄病院の、365日、24時間、救急外来をしていただいておりますが、どのような状況にあるのか、あわせて御説明をいただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、住民訴訟の件で、私から今後について申し上げたいと思っております。

去る平成22年5月10日に訴状が佐賀地方裁判所に提出されて以来、これは共産党の平野、江原両議員が記者会見に御同席されたということもありますけれども、訴状が佐賀地方裁判所に提出されて以来、口頭弁論、弁論準備がそれぞれ1度ずつ開会され、具体的な手続が進んでいます。7月9日には第1回口頭弁論、この中で、原告側、これはすなわち訴えを起こした側は、9月10日までに求釈明申立書に対する反論を書面にて提出するとされておりました。しかし、またここでちょっとおくれて、9月24日に原告準備書面第1回が提出されています。文中、求釈明に対する回答として、原告らは提訴までに不動産鑑定士による鑑定意見を取得していないという御指摘があります。9月29日、第1回弁論準備でありますけれども、ここで被告準備書面第1回が提出され、原告側の御意向により、次回は12月17日に口頭弁論、原告側から準備書面、書証提出は11月26日と約束をされていたにもかかわらず、昨日現在、この提出はあっておりません。

そういった中で、昨日の山口昌宏議員の質問等で明らかにされておりましたけれども、全然期限を守んされんわけですね。この間、裁判はどんどんおくれていくわけですよ。その分、裁判費用はかかっていくし、私たちもこれに要する——江原議員よろしいでしょうか、答弁しておりますよ。それで、この準備に要する職員もこれに当たらきゃいけないと。一部の職

員は徹夜しよおですよ。しかし、全然あちらさん側は誠意のある対応を示されていない。それにもかかわらず、先ほど申し上げたように、不動産鑑定士、公認会計士等の専門家により何ら助言を得ることなく、21億円余の請求を行う訴訟が提起されたことがこの間明らかになっていて、これは一般質問等で明らかになっており、この経過についてはまことに遺憾であります。

その上で、きょうはもうパネルは出しませんけれども、あちらさんの弁護士さんは募金活動までしょんさあわけですね。市民に募金を募ったり、あるいは医師会に募金を募ったり、もう医師会も乗ったらいかんですよ、こがんとに。私はそがん思うです。ですので、そういうことで、我々としては、もっと足を引っ張るんじゃなくて、特に共産党の平野議員と江原議員には申し上げたいんですけども、やっぱり前向きに進めていくということが私の市長としての見解であり意見であります。

その上で、新武雄病院ですけれども、これはさきの1期目のときに、黒岩幸生市民病院特別委員長が中心となって、この病院が今新たにもう産声を上げつつありますけれども、本当に私は偉いと思いますよ。もうあれだけ誹謗中傷をされて、私が言われるのはいいですと、政治家だから。だけど、その中でホワイトナイトとして、本当に助からない命を助け、そして、これも山口良広議員の一般質問で明らかになりましたけれども、今度緊急の透析、これは本当にお困りの方が多いんですね。それも手がけていきたいと。さらには、佐賀県内で医師不足のところが多々見られるといったところにも私たちのできる範囲でぜひ連携、協調していきたいということまでおっしゃっているんですよ。私はその姿勢というのは本当に買いたいと思います。

その上で、私は新武雄病院を中心として、まだ医師会とは仲直りしていませんけども、もうすぐ仲直りするでしょう。その中で、私は医療連携を組んだ上で、これは谷口攝久議員の御質問にも答えましたけれども、やっぱり健康、命を中心としたまちづくりを進めていくのが武雄市長である私に課せられた使命だというように認識をしております。もとより、市政全般にわたっては、難題、諸課題がありますけれども、やはり余り他人の足の引っ張りとかそういうのじゃなくて、やっぱり限りある資源を結集して市政運営に当たっていききたいと思っております。ただ、私は、筋が通らないこと、あるいは市民の不利益になることについては、市民を代表して市民の先頭になって戦うことを重ねて申し上げたいと思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

武雄市のために、とにかく一生懸命頑張っていたいただきたいということをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。